

北琉球奄美大島佐仁方言の敬語形式

重 野 裕 美*

1. はじめに

これまで琉球方言の中でも特に報告の少ない奄美方言¹⁾を対象として、敬語形式を体系化し、その機能や用法の全体像を解明することを試みてきた。本稿では、奄美方言敬語法調査から得られた資料をもとに、鹿児島県奄美市笠利町佐仁集落の敬語形式を報告する。具体的には、敬語の機能別、品詞別における敬語形式にはどのような形態素が用いられているのか、他の奄美大島方言の敬語形式との共通点・相違点は何か、という点に着目しながらその特色を整理することを目的としている。

2. 先行研究

奄美大島方言の敬語形式は、各地域の報告書や辞書で確認することができる²⁾。さらに、全国を対象とした調査からも、形式やその用法の一部を観察できる³⁾。しかしながら、いずれも語彙の説明に留まっており、敬語形式の体系的な記述やその機能・運用法について整理されているものはほとんど見当たらない。

これまで、奄美大島龍郷町浦方言を中心としながら奄美方言敬語形式の体系化やその運用法の調査を進めてきた⁴⁾。浦方言についてはある程度記述がなされているが、他方言の記述は十分とは言えない。本稿では奄美大島の最北端に位置する佐仁方言の敬語形式について詳述していく。

3. 調査の概要

ここでは、調査の対象地域、調査方法、文例の示し方について述べる。

3.1 対象地域

対象地域を、図1に市町村単位で示す。上から、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島である。平成の大合併により、奄美大島の笠利町・名瀬市・住用村は奄美市となっている。説明の便宜上、合併前の市町村単位の区画を反映させ、考察を進める。奄美諸島は行政区画上鹿児島県に属するが、言語・文化等は沖縄本島を中心とする琉球文化圏に属する。本稿では、奄美方言の中でも、奄美大島の北部、笠利半島最北部に位置する佐仁方言を対象とする。佐仁集落は奄美市笠利町に属している。集落は佐仁川河口北東部の海岸砂丘上にある⁵⁾。周辺の集落と距離があるため、地元の人たちは佐仁集落を「陸の孤島」とよぶ。さらに、音のバリエーションも豊かであり、「言語の島」としても知られている⁶⁾。

佐仁方言は主に50歳代以上の方言話者が母語として使用している。人口は334人（男性：151人、女性：183人）、世帯数は190世帯である（2013年11月末現在）。奄美方言は、他の琉球諸語と同様、世代間の伝承が断絶しつつある。さらに、敬語形式を自由に操れるのは70歳代以上の方言話者である。いわゆる伝統方言が消えようとしている現在、敬語法は記述が急がれる分野の一つである。

* 広島経済大学経済学部助教



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）を使用したものである。（承認番号 平19総使、第82号）

図1 奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島

3.2 調査方法

奄美方言敬語法調査の期間は2009年3月から2013年3月である。調査は、話者が聞き手、話題の人物との人間関係により、言語形式をどのように変化させるかを観察した。調査対象とした話者は、81歳女性（調査時）と72歳男性（調査時）の佐仁方言話者である。両親も与路集落出身者であり、話者の配偶者も佐仁集落出身の方言話者である。また、本稿中において佐仁方言と比較するため他の奄美大島方言の例を示す。話者情報の詳細は表1のとおりである。

3.3 「目上」「同等」「目下」の判断基準

話者はどのような基準で「目上」「同等」「目下」の判断をおこなっているのだろうか。重野(2012)では佐仁方言と同じ北琉球奄美方言に属する浦方言を対象として、人間関係による場面差が動詞の形態変化にどのような影響を与えるかを調査した。調査の結果、対象地域の「目上」「同等」「目下」の判断基準は年齢による差が重

表1 奄美大島方言敬語法調査の話者情報

島名	集落名	調査時年齢 (性別)	調査年月
奄美大島	笠利町 佐仁集落	81歳 (女性) 72歳 (男性)	2009年3月
	笠利町 笠利集落	86歳 (女性) 83歳 (女性)	2009年3月
	龍郷町 浦集落	80歳 (女性) 58歳 (男性)	2009年2月 2009年8月
	名瀬市 久里集落	83歳 (男性)	2009年3月
	住用村 城集落	80歳 (女性)	2009年8月
	大和村 大和浜集落	74歳 (男性)	2009年9月
	宇検村 湯湾集落	82歳 (男性) 75歳 (女性)	2009年3月
	瀬戸内町 古仁屋集落	71歳 (男性) 71歳 (男性) 50歳 (男性) 50歳 (男性)	2008年12月
与路島	瀬戸内町 与路集落	72歳 (男性)	2009年5月 2013年3月

視されていることが判明した。佐仁方言も浦方言と同様、敬語形式の運用に年齢差が最も影響を与える。もちろん、社会的地位や親疎関係の要因も敬語形式の運用に少なからず影響を与えるが、場面が複雑になるので本稿では扱わないこととする。

3.4 例文の示し方

例文は分節ごとに分かち書きを行い、1行目に国際音声字母（IPA 表記）による音韻表記、2行目にグロス（文法的意味）をつけ、3行目に現代日本語（以下、日本語と略す）による直訳または意識を示す。そのため、日本語では非文または許容度が低い訳になる場合もある。「=」は接語境界、「-」は接辞境界を意味している。また、例文には丸括弧で通し番号をつける⁷⁾。本文中の方言形および話者から得られた資料は斜体で示す。

4. 佐仁方言の敬語形式

本節では、佐仁方言の応答詞、人称代名詞、述部に認められる敬語形式の整理をする⁸⁾。その際、敬語形式だけではなく、非敬語形式もあげる。述部に認められる形式については、敬語の機能別（尊敬語・謙讓語・丁寧語）、品詞別に形態素分析を行う。佐仁方言の敬語形式を尊敬・謙讓・丁寧の機能で分類すると、以下のように整理できる。表中の「—」は該当する形式がないことを意味している。

表2 佐仁方言の述部に認められる敬語語根と敬語接辞

	語根	接辞
尊敬	<i>oor- misjor- wuzum-</i>	<i>-insjor</i>
謙讓	<i>ugam- oser-</i>	—
丁寧	—	<i>jo(o)r</i>

表2より、丁寧表現専用の敬語語根はなく、謙讓表現専用の敬語接辞もないことが分かる。

次に、表2に示した佐仁方言の敬語語根をさらに (a) 敬語語根（本動詞的用法）と (c) 敬語補助動詞（補助動詞的用法）に分けると敬語形式の型は (1) のように分類できる。

(1) 敬語形式の型

- (a) 敬語語根
- (b) 敬語（派生）接辞
- (c) 敬語補助動詞

補助動詞の語頭には「#」を付け、敬語語根と敬語補助動詞の語根を表記上区別する⁹⁾。述部に認められる敬語形式に関しては、以上の分類基準を用いながら詳述していく（4.3節）。

4.1 応答詞

相手から「これを食べてもいいか。」と聞かれて、「うん、いいよ。」と肯定の返事をする際の応答詞は以下のとおりである。(2) は目上、(3) は目下に対する肯定の応答詞である。

(2) 話し手<聞き手

oo.
はい
(はい。)

(3) 話し手>聞き手

un.
うん
(うん。)

(2) にあげたように、目上への応答詞としては *oo* があらわれる。(3) は目下への応答詞だが、日本語の影響とみられる *un* があらわれる。奄美方言内において、目下への応答詞は *in* が用いられることが一般的である。佐仁方言では *in*

が衰退しているのか、もともと *in* を用いないのかという問題については今後の調査で確かめたい。

次に聞き返す際の応答詞の例を (4) と (5) に示す。相手から何か言われて、再度その内容を聞き返す際は目上に対して、2 拍目のアクセントが高い応答詞 *hoo*, *nuu* を用いる。*hoo* は目上, *nuu* は目下に対して用いる。*nuu* は日本語の「何」に対応する方言形である。

(4) 話し手<聞き手

hoo nuu dar-joo-n?

はい 何 コピュラ語幹-丁寧-非過去-疑問

(はい 何でしょう。)

(5) 話し手>聞き手

nuu?

何-疑問?

(何。)

(2) と (4) から、目上に対する応答詞は *oo*, *hoo* の 2 種類あることが分かる。肯定の場合は *oo* 聞き返す場合は *hoo* となり、異なる形式を用いる。佐仁方言と同じく、肯定の場合と聞き返す場合とで異なる応答詞を用いる集落は多い。

4.2 人称代名詞

人称代名詞は日本語と同様、指し示される人物により 2 人称代名詞を *nan* (敬称), *j²¹⁰aa* (親称) で使い分ける。

性別による区別はない。佐仁方言の人称代名詞は奄美大島北部方言¹¹⁾ とほぼ同じ形式が分布している。複数形をあらわす接辞は 2 種類あり、人称の種類によって使い分けられる。1 人称と 2 人称の複数形には接辞-*kja*, 3 人称の複数形には-*ta* を用いる。人称代名詞において、待遇差が形式に反映されているのは 2 人称代名詞である。(6) に目上, (7) に目下を対象とした例を示す。

(6) 話し手<聞き手

nan=ga mizi misjor-isjaka-n=njaa?

あなた=が 水 飲む-尊敬-願望-非過去=疑問

(あなたが水(を)召し上がりたいたいのか。)

(7) 話し手>聞き手

j²aa=ga mizi num-isjaka-n=njaa?

おまえ=が 水 飲む-願望-非過去=疑問

(おまえが水(を)飲みたいのか。)

調査から、3 人称代名詞として *ari* の形式が得られた。

4.3 述部

ここでは、述部に認められる敬語形式について、丁寧、尊敬、謙譲の順にみていく。

4.3.1 丁寧形式

丁寧接辞として-*jo(o)r* があらわれる。動詞・

表 3 佐仁方言の人称代名詞

人称代名詞							
1 人称代名詞 「わたし」		2 人称代名詞				3 人称代名詞 「あいつ」	
		「あなた」		「おまえ」			
単数	複数	単数	複数	単数	複数	単数	複数
<i>wan</i>	<i>wakja</i>	<i>nan</i>	<i>nakja</i>	<i>j²aa</i>	<i>j²akja</i>	<i>ari</i>	<i>asuta</i>

形容詞の語根もしくは語幹に後接する。名詞を丁寧形式にする場合は、コピュラ語根 *dar-* に丁寧接辞 *-jo(o)r* を後接させて丁寧形式をつくる。

以下、話し手が動作主で、聞き手が話し手よりも (8) 目上、(9) 目下の例を示す。

- (8) 動作主=話し手, 話し手<聞き手
na=Nzi tegami kak-jo-ta-ttoo.
 あなた=に 手紙 書く-丁寧-過去-よ
 (あなたに手紙 (を) 書きましたよ。)

- (9) 動作主=話し手, 話し手>聞き手
j²a=Nzi tegami ka-sja-ttoo.
 おまえ=に 手紙 書く-過去-よ
 (おまえに手紙 (を) 書いたよ。)

以下、奄美大島方言内の丁寧形式の分布状況を図¹²⁾ 2 に示す。

図 2 から、奄美大島方言の丁寧形式をつくる接辞として *-jo(o)r* 系と *-jaur* 系の 2 種類の形式が分布していることが確認できる。北部に *-jo(o)r* 系、南部に *-jaur* 系が広がっている。*-jo(o)r* 系にも地域差があり、北部だと *-jor* だが、南部では *-joor* と母音を長めに発音する傾向がある。本稿

で対象としている佐仁方言は最北端に位置しておりながら、*-jor* と *-joor* がゆれている。現段階の調査資料では、このゆれの原因を明らかにすることは困難である。今後、各集落の音韻体系や音韻規則を調査することで解明したい。

4.3.2 尊敬形式

佐仁方言の尊敬形式を、(a) 敬語語根、(b) 敬語 (派生) 接辞、(c) 敬語補助動詞の 3 つ分類する。

- (a) 敬語語根
oor- (行く・来る・居る)
misjor- (食べる・飲む)
wuzum- (起きる)
- (b) 敬語 (派生) 接辞
-insjor
- (c) 補助動詞
#oor-

尊敬動詞は、*oor-*、*misjor-*、*wuzum-* の 3 語である。目上の動作主の行為に対して用いられる。*2oor-* は「行く」「来る」「居る」の意味の尊敬動詞である。(10) のように、尊敬語動詞のみの形

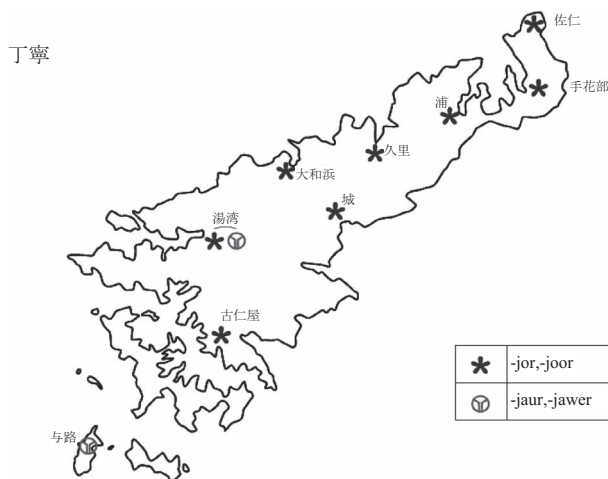


図 2 奄美大島方言における丁寧形式の分布

式で目上に用いることができる。日本語だと聞き手が目上の場合、尊敬動詞のみの形式では用いにくく、丁寧接辞を必要とする。一方、対象地域では聞き手が目上であっても、目上の動作主の行為に敬語動詞を用いるだけでよい。(11)に目下が動作主の場合の例を示す。

- (10) 動作主=聞き手, 話し手<聞き手
nan=ja gakkoo=cci oo-n=naa?
 あなた=は 学校=へ 行く. 尊敬
 非過去=疑問
 (あなたは学校へいらっしゃるか。)

- (11) 動作主=聞き手, 話し手>聞き手
f²aa=ja gakkoo=cci icju-n=naa?
 おまえ=は 学校=へ 行く-非過去
 =疑問
 (おまえは学校へ行くか。)

以下、奄美大島方言内の尊敬表現の分布状況を、「行く」の尊敬動詞を例にしながら図3に示す。

図3から、「行く」の尊敬形式には地域差があることが分かる。仲宗根(1976)や西岡(2011)によると、奄美大島方言全体に分布している形式は、日本古語や沖縄古語の「おはる」に歴史

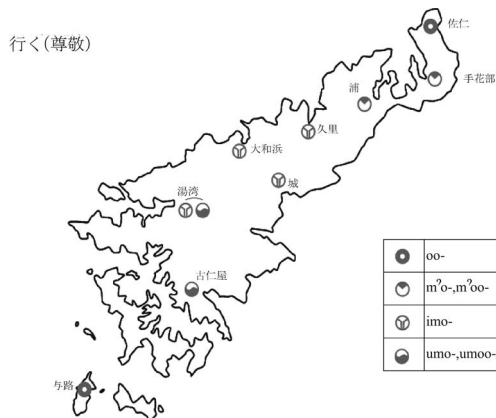


図3 奄美大島方言における尊敬形式「行く」の分布

的に対応するものであるとのべられている。興味深いことに最北端の佐仁方言と最南端の与路方言が同形式の oo- が「行く」の尊敬形式の語根としてあらわれる。また、仲宗根(1976)では、他の地域の、*m²o(o)-, imo-, umo(o)-* は「接頭辞+おはる」と分析できる形式だとされている。佐仁方言と与路方言の oo- は接頭辞がついていない形式となる。このような形式のバリエーションがなぜみられるかについては、今後、各地域の音韻体系や通時的な変化も確認した上で検討を進めたい。他の敬語語根である *misjor-* や *wuzum-* は、ほぼ同形式が奄美大島方言内で分布している。なぜ、同じ敬語語根内で分布状況が異なるのかという問題についても他の敬語形式の状況と比較しながら調査を重ねながら今後考察したい。

これまで oo- を例にあげながら奄美大島方言における敬語語根の分布状況をみてきた。次に *misjor-* と *wuzum-* の用法についても言及する。*misjor-* は「食べる」「飲む」の意味の尊敬語根である。「食べる」の意味に関しては、目上と目下で *mosjor-* と *kam-* があらわれる。以下、(12)目上の動作主、(13)目下の動作主に分けて例を示す。

- (12) 動作主=聞き手, 話し手<聞き手
misjor-i.
 食べる. 尊敬-命令
 (召し上がれ。)

- (13) 動作主=聞き手, 話し手>聞き手
kam-i.
 食べる-命令
 (食べろ。)

他の奄美大島方言では、目上と目下で *misjor-* とその非敬語形式である *kam-* が対立しており、その上で7歳前後の子どもへ向けた親愛表現で

ある *toi* 系が用いられることがある。今回の調査では質問項目として確認できなかったため資料として得られなかったが、親愛表現が佐仁方言からも得られる可能性はある。また (12) のように尊敬語根に命令の意味をあらわす接辞 *-i* を後接させて命令形をつくることが可能である。日本語では許容されない形式であるが、対象地域では違和感なく用いられる。

次に *wuzum-* についてのべる。*wuzum-* は「起きる」の尊敬語根である。(14) に動作主が目上の例を示す。

- (14) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手
wuzum-insjo-N = naa?
 起きる. 尊敬- 尊敬接辞- 非過去 = 疑問
 (お目覚めなさるか。)

以上、尊敬語根である *oo-*, *misjor-*, *wuzum-* についてみてきた。奄美大島南部方言では、授受動詞の尊敬語根 *tabor-* 系があらわれるが、奄美大島北部方言には相当する形式がない。佐仁方言からも得られなかった。奄美大島南部方言と比較して奄美大島北部方言は敬語語根の種類が1つ少ない点は共通している。

次に、尊敬接辞についてのべる。対応する意味の尊敬語根がない非敬語形式は、尊敬接辞 *-insjor* を語根もしくは語幹に後接させることで尊敬形式をつくる。

- (15) 動作主 = 聞き手 = 目上, 話し手 < 聞き手
k²in k²ir-isjo-N?
 着物 着る- 尊敬接辞- 非過去. 疑問
 (着物 (を) 着なさるか。)

尊敬接辞は *-insjor* の上記の1形式のみである。尊敬接辞 *-insjor* も尊敬動詞同様、命令の意味をあらわす接辞 *-i* を後接させて命令形をつくるこ

とが可能である。

次に、尊敬形式の補助動詞 *#oor-* についてのべる。*#oor-* は共通語の「～ていらっしやる」に相当するアスペクトの敬語補助動詞として用いられる。日本語では同種の敬語形式を重ねると二重敬語として非文となるが、佐仁方言では (16) のように許容される。この用法は他の奄美大島方言でも用いられる。

- (16) 動作主 = 聞き手, 話し手 < 聞き手
assjaa nase=cci oo-ci
#oor-i=joo.
 明日 名瀬=に 行く. 尊敬- 接続
 # 来る. 尊敬- 命令 = よ
 (明日名瀬にいらっしやっていたら
 しゃれよ。)

聞き手が目上、目下に関わらず、動作主が目上の場合、尊敬語動詞を用いる。また、聞き手が目上の場合、(12) のように丁寧接辞を後接せず尊敬形式の語根のみ用いればよい。日本語ほど丁寧接辞を後接させることは義務的ではなく、むしろ尊敬語根と共起することがほとんどないといえる。また、補助動詞の敬語語根も (16) のように命令形をつくることができる。

4.3.3 謙讓形式

謙讓形式の敬語語根には、*oser-*, *ugam-* の2形式がある。*oser-* は日本語の「さしあげる」に相当し、授受動詞の謙讓語動詞である。*ugam-* は「会う」の意味の謙讓語動詞である。奄美大島方言内では、「言う」の意味の謙讓語根 *sirarer-* があらわれる地域が多いが、佐仁方言では得られなかった¹³⁾。全体的に衰退しつつある形式であるため、もともとは使われていたが衰退した可能性がある。ここでは、上記の2形式についてのべる。

佐仁方言の謙讓形式を、(a) 敬語語根, (b) 敬語 (派生) 接辞, (c) 敬語補助動詞の3つに

分けると以下のとおりになる。尊敬形式とは異なり、(b) 敬語(派生)接辞、(c) 敬語補助動詞に相当する形式は見当たらない。謙讓の敬語接辞は他の地域でも見当たらない。佐仁方言にも敬語接辞はないと考えられるが、補助動詞 *oser-* は他の地域で一般的に用いられる形式である。佐仁方言でも用いられている可能性が高いが、今回の調査では得られなかった。今後の調査で再度確かめたい。

(a) 敬語語根

oser- (あげる・やる)*ugam-* (会う)

(b) 敬語(派生)接辞

(c) 補助動詞

以下に、*oser-* の例として動作主が話し手、聞き手が(17)目上と(18)目下の場面における例を、*ugam-* は(19)あいさつ表現における例を示す。

(17) 動作主=話し手, 話し手<聞き手

kun hon oser-jor-oo.

この本 あげる. 謙讓-丁寧-意思
(この本(を)さしあげましょう。)

(18) 動作主=話し手, 話し手>聞き手

kun hon kurer-oo.

この本 あげる. 謙讓-丁寧-意思
(この本(を)あげよう。)

(19) 動作主=話し手, 話し手<聞き手

sukama ugam-insjoor-an.

朝 会う. 謙讓-尊敬接辞-非過去
(?)

(おはようございます。)

謙讓形式の敬語語根は以上の *oser-*, *ugam-* である。以下、奄美大島方言内の尊敬表現の分布状況を、「会う」の謙讓動詞を例にしながら図4に示す。

図4から、「会う」の意味に対応する敬語語根 *ugam-* 系が奄美大島方言全域に分布していることがわかる。他の敬語語根も同語源と考えられる *oser-* 系が共通してあらわれるが、奄美大島北部方言は *oser-*, 奄美大島南部方言は *weser-* という多少ことなる形式が南北に分布する。

以上、謙讓形式の敬語語根についてのべてきた。尊敬形式とは異なり、謙讓の機能を担った専用の(派生)接辞はない。そのため、話し手や目下の行為・状態を目上の聞き手へ伝えたい場合は、(20)のように丁寧形式で対応する。

(20) 動作主=話し手, 話し手<聞き手

wan=ga s-jo-n.

私=が する-丁寧-非過去

(私が します。)

今回の調査からは、(a) 敬語語根のみしか得られなかったが(c)の補助動詞は存在する可能性が高い。奄美大島方言内において、日本語の「さしあげる」や「拝む」に相当する敬語語根は安定して取り出せる。しかし、「拝む」は(19)

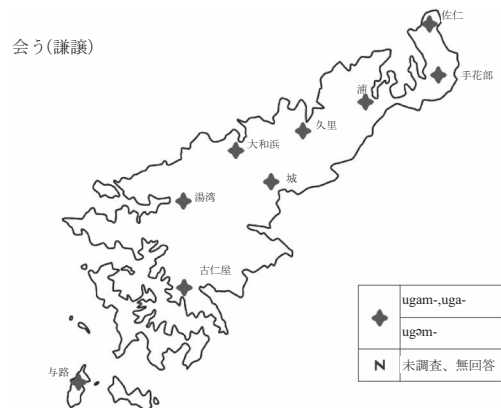


図4 奄美大島方言における謙讓形式「会う」の分布

のように慣習化したあいさつ表現のみに残存しており、会話文ではほとんどあらわれない。また、「言う」の謙讓形式である「申し上げる」に相当する形式は、奄美大島方言内において衰退しつつある形式であり、佐仁方言調査からも得られていない。

5. まとめと今後の展開

本稿では、佐仁方言の敬語形式について着目しながら詳述してきた（4節）。佐仁方言の特色を以下に整理する。

《応答詞》

- ・ 応答詞では、目上には *oo*、と目下には *un* を用い、使い分けられている。目下への *un* は日本語からの借用と考えられるが、対象地域の実態として報告する。方言形の *in* は得られなかった。
- ・ 目上に対する応答詞の種類によって形式上の区別がある。「肯定するとき」「承知するとき」には *oo* を、「名前を呼ばれたとき」「聞き返すとき」には *hoo* を用いる。

《人称代名詞》

- ・ 聞き手が目上か目下かで待遇差が形式に影響を与えるのは、2人称代名詞である。目下には *ʃaa* を、目上には *nan* を用いる。これらの形式や機能に関しては奄美大島北部方言の特徴と共通している。

《述部》

- ・ 佐仁方言も他の奄美大島方言と同様、敬語形式を次の3形式に分類することができる。
 - (a) 敬語語根
 - (b) 敬語（派生）接辞
 - (c) 敬語補助動詞
- ・ 尊敬形式や謙讓形式の敬語語根が他の奄美大島方言と比較して少ない。衰退していると考えられるが、日本語の影響もみられる。このような違いは地域差なのか話者の個人差かについては現在の資料からは明確なこ

とは言えない。今後の課題としたい。

- ・ 図3に示したように、尊敬形式の敬語語根「行く」の分布において、奄美大島の最北端に位置する佐仁方言と最南端に位置する与路方言の形式が一致することがわかる。（旧）名瀬市を中心としてその周辺に古い形式が残っているとも考えられるが、それを示す資料はまだ見つかっていない。周辺集落との比較をとおして、考察を進めたい。
- ・ 次の例のように尊敬動詞のみで命令形が可能である点、(c)の組み合わせによる敬語語根の二重敬語が許容される点は他の奄美大島方言の特徴と共通している。

ʔoo-ci#oor-i

行く・尊敬-接続 # 尊敬-命令

以上、他の奄美大島方言内の敬語形式との比較をとおして、佐仁方言の敬語形式について整理した。大まかな敬語形式の体系やその用法は共通しているものの、佐仁方言にはない形式もある。各形式の機能や運用の詳細は、文法記述を踏まえた上で解釈を進める必要がある。引き続き、奄美大島方言敬語法調査で得た資料を分析しながら、奄美大島方言のみではなく、琉球方言の敬語法全体を見渡せるような言語運用実態の解明を試みたい。

付記：本研究は JSPS 科研費22520470「奄美諸島方言における社会構造の変容と方言敬語法の変容過程の研究」の助成を一部受けたものである。

注

- 1) 喜界島・奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島・沖永良部島・与論島などの奄美諸島全体で話されている方言の総称を本稿では「奄美方言」とよぶ。奄美大島とその属島である加計路麻島・請島・与路島で話されている方言を総称する場合は「奄美大島方言」とし、「奄美方言」とは区別する。
- 2) 長田 (1980), 寺師 (1981), (1985), 柴田 [編] (1984), 高江洲 (2009) など。
- 3) 『全国方言資料』(1972), 『方言敬語法の研究』

- (1978-79), 『方言文法全国地図』(2006) など。
- 4) 重野2009, 2010a, 2010b, 2011, 2012, 2013 など。
 - 5) 佐仁集落の地理的状況については『角川日本地名大辞典 46 鹿児島県』(p. 316) 参照。
 - 6) 佐仁方言は他の奄美大島方言と同様7母音体系であるとともに、佐仁方言特有の鼻母音もある。また、古い日本語にあったとされるハ行子音の p 音を保持するなど、奄美大島方言の中でも音声・音韻のバリエーションが豊かな方言として知られている(狩俣2003)。本稿では、著者が聴き取った範囲における簡易的な音韻表記で例文を示すが、音声・音韻の特色については触れない。今後、詳細な音韻調査を重ねた上で、実態に即した表記に改めたい。
 - 7) 例文表記は、『言語研究』(日本言語学会：編集・発行)の『執筆要領』に準じている。
 - 8) 奄美大島方言にも現代日本語の「御」に相当する接辞 /u-/ の敬語形式が存在する。与路方言においても同じ接辞があると考えられるが、現段階では調査が不十分である。本稿では接頭辞に認められる敬語形式および婉曲的表現を用いる待遇形式等については未調査のため言及しない。
 - 9) 補助動詞の語頭の前に「#」を付ける案は、風間(1992)の例文表記法を参照している。
 - 10) この音は子音の一つで、「声門閉鎖音(グロッタル・ストップ)」もしくは「声門破裂音」とよばれる。国際音声字母では「ʔ」と記述される。声門閉鎖音は声を出す前にのどにある声帯を閉じ、肺からの空気を一時的に遮断するときにつくられる音である。対象地域では母音の前に常に声門閉鎖音がたつ(例：ʔoo「はい」)。また、他の子音を発音するときに、喉頭もしくは声門を閉じるか狭めると、声門閉鎖音と同様、聴覚印象では「硬い音」に聞こえる。このような子音は、「喉頭化子音」とよばれる。喉頭化子音はその子音の右肩に小さくした「ʔ」をつけて表記する(例：hʔwa「子ども」)。対象地域では、声門閉鎖音や喉頭化子音の有無が意味の区別に使われる。(例：wutu「夫」とʔutu「音」、wa「輪」とwʔa「豚」)。重野(2013)では語頭の母音の前に声門閉鎖音をつけていたが、本稿では常に語頭にあらわれるため表記を省略している。表記法の違いに注意されたい。
 - 11) 奄美大島方言はさらに奄美大島北方言と奄美大島南方言に大別できる。奄美大島北方言に属する地域は、北から(旧)笠利町、龍郷町、(旧)名瀬市、大和村、(旧)住用村である。奄美大島南方言に属する地域は、宇検村、瀬戸内町である。
 - 12) 本稿で用いた言語地図は、徳永晶子氏(一橋大学大学院博士後期課程3年)による作図である。
 - 13) 仲宗根(1976: 493)に琉球の古代歌謡『おもろさうし』に〈しられ系〉があり、沖縄本島中部を

中心として、宮古方言、石垣方言に「申し上げる」に相当する謙讓語動詞として広がっているとの指摘がある。

参考文献

- 長田須磨・須山名保子・藤井美佐子(1980)『奄美方言分類辞典 下巻』笠間書院
- 風間伸次郎(1992)「第11章 接尾型言語の動詞複合体について：日本語を中心として」宮岡伯人[編]『北の言語：類型と歴史』三省堂, pp. 241-260
- 「角川日本地名大辞典」編集委員会(1983)『角川日本地名大辞典 46 鹿児島県』角川書店
- 狩俣繁久(2003)「奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙」『文部科学省特定領域研究「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』(ELPR publication series, A4-014), 大阪学院大学情報学部 国立国語研究所[編](2006)『方言文法全国地図 第6集』国立印刷局
- 金城朝永他(1931)「南方方言に於ける敬語法(第2回例会記録)」『旅と伝説』5-2, pp. 69-74
- 重野裕美(2009)「奄美大島龍郷町浦方言の敬語動詞[ʔimori]の世代差・意味差に関する研究」、『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 第58号, 第二部, pp. 213-218
- 重野裕美(2010a)「奄美諸島方言の敬語法—敬語形式の分布とその展開に着目して—」, 『國學攷』, 第208号, pp. (1)-(18), 広島大学国語国文学会
- 重野裕美(2010b)「奄美大島龍郷町浦方言の敬語法—全国共通語敬語法との比較を通して—」, 『広島大学大学院教育学研究科紀要』, 第59号, 第二部, pp. 279-288, 広島大学大学院教育学研究科
- 重野裕美(2011)『奄美諸島方言敬語法の記述的研究』, 広島大学大学院教育学研究科提出, 博士論文
- 重野裕美(2012)「奄美大島龍郷町浦方言の丁寧語」, 『広島大学日本語教育研究』, 第22号, pp. 9-16, 広島大学大学院教育学研究科
- 重野裕美(2013)「鹿児島県瀬戸内町与路方言の敬語形式」, 『広島経済大学研究論集』, 第36巻第3号, pp. 45-56, 広島経済大学経済学会
- 柴田 武[編](1984)『奄美大島のことば—分布から歴史へ—』秋山書店
- 高江洲頼子[編](2009)『琉球語諸, 方言形容詞の形態論に関する調査・研究 平成16年度~平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(B)研究報告書) 沖縄大学人文学部
- 寺師忠夫(1981)『奄美方言の研究』自家出版
- 寺師忠夫(1985)『奄美方言, その音韻と文法』根元書房
- 仲宗根政善(1976)「宮古および沖縄本島方言の敬語法—『いらっしやる』を中心として—」『沖縄自然・文化・社会』(1976)九学会連合沖縄調査

- 委員会, 弘文堂, pp. 491-502 [『琉球方言の研究』新泉社, 1987に所収]
- 西岡 敏 (2011) 「竹富方言の敬語補助動詞と対者敬語的終助詞」『日本語の研究』7-4, pp. 55-67
- 日本放送協会 [編] (1972) 『全国方言資料 第10巻 琉球編 I』日本放送出版協会
- 藤原与一 (1978) 『昭和日本語方言の総合的研究第一巻 方言敬語法の研究』春陽堂
- 藤原与一 (1979) 『昭和日本語方言の総合的研究第二巻 方言敬語法の研究 続篇』春陽堂